

日本聖公会東京教区
各教会・礼拝堂
牧師・管理牧師 教会委員の皆さま

日本聖公会東京教区事務所
宣教主事 司祭ヨセフ太田信三
宣教主事補 ジョアンヌ田中まき

『東京教区パワーシフト・キャンペーン』のお知らせとお願い

主の平和がありますように。

このたび東京教区事務所がリードする形で、『東京教区パワーシフト・キャンペーン』を開催します。このキャンペーンは、各教会・礼拝堂の電力を、自然エネルギー、再生可能エネルギーへとシフトすることを目指しています。

宣教の5指標の一つに、「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」とあります。本キャンペーンは、この指標及び①すべての被造物がいのちを大切にしよう世界へ ②二酸化炭素削減 ③2020年10月日本聖公会第65（定期）総会で決議された「『原発のない世界を求める国際協議会』の声明に賛同する」という3つの観点に基づき開催するものです。

人間は生きるため、地球、宇宙のあらゆるものからエネルギーをいただいています。人間は歴史のなかで、そのエネルギーを得るために、自然を拓き、火力発電、原子力発電などを開発し、利用してきました。しかし、今、この歴史の結果として、自然は破壊され、原子力発電は命に直接的な危険を及ぼす事故を起こしてしまいました。破壊へと繋がってきたこれまでの歩みは、すべての被造物を祝福した神の思いと反するものであったことを素直に認め、反省とともに、行動を新たにする必要があります。このような取り組みは、神からの命を大切にす教会こそが、率先して世界に訴えて来るべきことでしたが、残念ながらそうはなっていません。むしろ、世界中の良き思いを抱いた人々により動きが起こっています。教会はその知恵と経験に学ばせていただきながら、遅まきでもこの取り組みを開始して参りましょう。

各教会・礼拝堂へのお願い

本キャンペーンの具体的なスケジュール案は別紙のとおりです。各教会・礼拝堂におかれましては、まずは以下講演会へ、教役者と信徒一名にて是非ともご参加くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

日時：5月30日（日）15時～（オンライン開催）

講演者：国際環境 NGO FoE Japan (Friends of the Earth Japan)

パワーシフトキャンペーン事務局 吉田明子様

（この活動については、お送りするリーフレットまたは以下より御覧ください）

<https://power-shift.org>

<https://www.facebook.com/powershift2016>

<https://twitter.com/powershift2016>

出席者：各教会・礼拝堂 教役者と信徒一名

※4月中に各教会の出席信徒をお決めいただき、宣教主事または主事補までご報告下さい。

『東京教区パワーシフト・キャンペーン』に寄せて

聖書の冒頭にあります「神様の働きの物語」には、「天地の創造」というタイトルが付されています。「初めに、神は天地を創造された」で始まり、一つ一つの創造の都度、「神はこれを見て、良しとされた」、即ち神様自ら、神様の意に適っていると承認されるとともに、神様の喜びを感じさせます。

そして、最後に人間を造られた際に神様は力強く言われます。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう」と。神様の創造の働き、いのちの働きへの協力者として、私たち人間への協働、協力を神様自らが求められます。

この神様の願い、人間への信頼は、創世記が書かれた紀元前だけのことではなく、今も続けられています。しかしながら、この神様の意を、願いを壊したり、傷つけたりする動きも起こりました。「何が?」「誰が?」を真摯に振り返らざるを得ません。けれども、同時に神様の息吹を受けて、再び取り戻す力も授かっていることも深く心に留めたいと思います。

主教フランシスコ・ザビエル高橋宏幸

10年前の東日本大震災は、被災地の被害の甚大さもさることながら、自然災害にとどまらず人災の側面が極めて大きいことに衝撃を受けた出来事でした。

当時、直接被災をしていない私たちの多くは、原子力発電所の事故によって引き起こされた事態が、自分たちの課題と密接に関係していることに気づかされました。豊かになり過ぎた人間社会、自然環境をも支配しようとする人間の傲慢さが問われるものでした。日本ばかりでなく世界の各地で、それまでの生き方や価値観などが大きく揺さぶられ変わっていかうとする機運が高まりました。

あれから10年、便利さを優先する生活を見直し、節電も心がけようとした当時の思いを、どれほど実際の行動に繋げてきたでしょうか。現実には、なかなかきっかけが掴めないまま思いが薄れてきてしまっているのが実態ではないでしょうか。

教区が開始する「パワーシフト・キャンペーン」を、それぞれが行動する良いきっかけとして、いっしょに一步踏み出しましょう。

総務・危機対応デスク マルコ松村豊